

第4回 熊本市自治推進委員会会議録概要

日 時：平成26年11月14日（金） 午前9時30分～11時30分

会 場：議会棟 議運・理事会室

出席者：明石委員長、田中副委員長、緒方委員、越地委員、篠塚委員、毎熊委員
毛利委員、安永委員、遊佐委員、吉村委員

事務局	<p>1 開 会</p> <p>皆様おはようございます。</p> <p>ただ今から、第4回「熊本市自治推進委員会」を開会いたします。本日は委員の皆様におかれましては大変お寒い中、また早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。本日もよろしくお願いたします。</p> <p>委員会は午前11時30分までの2時間程度を予定しておりますので、円滑な進行方にもよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>早速ですが本日の配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none">○式次第○第3回 熊本市自治推進委員会会議録概要 資料1○市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票 資料2 <p>※実績調査票が節水対策事業・生ごみ減量対策事業・災害時要援護者支援制度事業の順に綴っており、それぞれに別紙資料が添付されています。</p> <ul style="list-style-type: none">○検証チェックシート <p>※事業毎に3枚準備しています。検証の際のメモ用紙としてご活用ください。 (委員のみ配布)</p> <ul style="list-style-type: none">○検証評価シート <p>※事業毎に3枚準備しています。検証チェックシートに基づいてそれぞれ取組みについて評価していただき、後日（本日委員会終了後でも可）、ご提出していただきます。（委員のみ配布）</p> <ul style="list-style-type: none">●生ごみ減量対策事業関連資料 (かんたんエコレシピBook、チャレンジ-20gオリジナルまな板)●各課参加者名簿及び検証タイムスケジュール <p>※当日資料として、机上に配布</p> <p>それでは、明石委員長よろしくお願いたします。</p>
明石委員長	<p>委員の皆様おはようございます。朝早くからお疲れ様でございます。一気に冬めいてきまして、思わず首をすくめる季節となりました。</p> <p>早速、第4回「熊本市自治推進委員会」を始めさせていただきます。</p> <p>まず審議に入ります前に、会議の成立について事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日も委員10名全員の方にご出席いただいております。従いまして熊本市自</p>

	<p>治推進委員会規則第5条第2項の規定により、本日の会議が成立していることをご報告いたします。</p>
明石 委員長	<p>2 報告事項</p> <p>ありがとうございます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、第3回委員会の議事録についてです。</p> <p>それでは、前回の議事録について、事務局からご報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>※資料1「会議録概要」にて事務局より確認。委員会前に事前送付し各委員において確認済み、委員会終了後にホームページへ公開予定。</p>
明石 委員長	<p>3 議事【事例検証】</p> <p>議事録について追加の修正等ございましたらご連絡をお願いします。特に修正等無いようでしたら、第3回の議事録についてご承認いただくということでしょうか。はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは早速事例検証に進ませていただきます。</p> <p>まず本日の事例検証はどういう方向で進めるのか、その流れについて事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは本日の流れについてご説明させていただきます。</p> <p>「事例検証タイムスケジュール」をご覧ください。本日の参加者名簿が裏面についております。本日はここに記載の3つの課から担当の職員が出席しておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>前回は5つの区のまちづくり推進事業ということで検証していただきましたが、本日検証していただく事例は、全市的に取り組んでおります3つの事業についての検証ということになっております。</p> <p>一つが「節水対策事業」で水保全課が担当しているもの。次が「生ごみ減量対策経費」でごみ減量推進課が担当でございます。最後に「災害時要援護者支援経費」で健康福祉政策課が担当でございます。この3つでございます。これらそれぞれの事業につきましてまずは担当課から10分程度事業説明をさせていただきます。それを受けまして同じく10分程度で委員の皆様からヒアリング等をお願いいたします。これを3回繰り返しまして、3つの説明・ヒアリング等が終わりました後に、改めまして意見交換会及び課題の整理・検討ということで60分程度時間をお取りしておりますので、そこでまた議論を深めていただきたいと思います。また、説明される各課の方へのお願いですが、説明は10分をお願いしたいと思います。5分経ちましたらベルを1回、また2分前に再度ベルを鳴らしますので、説明時間配分の目安にいただければと思います。</p> <p>また各委員におかれましては、お手元にあります検証チェックシートをご活用いただきながら、各事業について検証を行っていただきたいと思います。</p> <p>改めてではございますが、今回検証と申しておりますが、事業の評価ということではなく、事業実施にあたっての情報共有の取り組みについて検証するということになっておりますので、よろしくお申し上げます。</p> <p>スケジュールにつきましては以上でございます。</p>

明石 委員長	<p>それでは、ただいまご説明がありましたような形で検証を進めさせていただきます。この点に関してご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>大体の流れは前回の進め方とほぼ同じで、1事業20分程度で進めさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは早速、節水対策事業について水保全課からご説明をお願いします。</p>
水保 全課	<p>※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にて水保全課より説明。</p>
明石 委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それではただ今節水対策事業についてご説明をいただいたところですが、節水対策事業について委員の皆様からご質問、ご意見等ございましたらよろしく願いいたします。</p>
田中副 委員長	<p>熊本大学の田中と申します。ご説明どうもありがとうございました。非常に簡潔で分かりやすく、共感できました。ご説明にあったかもしれませんが、この節水というのは終わりがなかなか見えにくいと思います。今、数値目標は言っていて、徐々に下げていくのかなと思うのですが、ゴールはいつもどのようにご説明されていますか。</p>
水保 全課	<p>現在設定をしております218リットルというのが、第2次地下水保全プランというものを基に作成しております、このプランが平成30年度を目標にやっております。</p> <p>現在、九州の中で一番使用量の少ない都市が福岡市で、約200リットルになっていますので、218リットルを達成した時点で再度福岡市のレベルまでいくのか検討したいと思います。ただ、熊本市は水に恵まれた都市ということでPRをしていますが、福岡市は断水等の経験もありますので、どちらかという使いたくても使えないという中での200リットルです。なので、そこまでいくのかどうかは平成30年度に再度検討したいと思います。</p>
田中副 委員長	<p>そういう量の話はなかなか一般の人には分かりにくいですね。</p> <p>私は元々京都の人間ですので、熊本の水はすごいと思っています。だから、数字ではない目標を明確にしたほうがいいのではないかなと思います。例えば、最後に無関心層は若者に多いと言われましたが、実際に私が接している学生は結構意識が高く、一番意識が低いのはどちらかというずっと熊本に住んでおられて、熊本から出たことのない年配の方ではないかと思います。そういう人たちが悪いのではなくて、そういう人たちにも分かりやすいような「他の地域の人には熊本の水を勧めましょう。」というような、数字ではない目標も進められたらいいのではないかなと思います。数字はなかなか難しいので、是非、「実感できる目標」というものを検討していただければと思いました。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>
毛利 委員	<p>先ほど説明の中にあっただけですが、市民運動に14万人登録されているというお話について質問です。これはどういう呼び掛けをされて、具体的にはどういう年齢層や団体が登録されているのか、またはどういうところを通してやられてい</p>

	<p>るのかについて説明をお願いいたします。</p>
水保全課	<p>呼び掛け自体は市政だよりやホームページです。当初は一斉に企業等にも文書等でお願いをしております、条件等は特にございません。節水に賛同して、一緒に節水の情報等を共有していただける方を対象としていますので、年齢等の制限は一切設けておりません。しかし企業などは、一企業として登録していただいておりますので、実際の話としては、企業としては登録していますが社員の皆様までそれをご存じかどうかは、こちらでは把握していないところでございます。</p>
毛利委員	<p>私も長い間自治会連合会の会長をやってきて、今は自治協議会の会長をしていますが、地域の町内会や連合町内会長会議、自治会の協議会では節水の呼び掛けをあまりしたことがありません。市政だよりなどで個々への呼び掛けや企業等への呼び掛けはあるのでしょうか、自治会組織などでも、呼び掛けできるような形があればいいなと思います。</p>
遊佐委員	<p>遊佐と申します。今委員のお二方がおっしゃったことと類似しておりますが、熊本というところにこれだけ水資源があるということ自体、私も元々北海道の人間なので不思議に思っております。自然のものというのは無制限に使っていけば、やはりどこかで枯渇してしまうという恐れはあると思います。地元に住んでおられる方というのは、なんとなくいろんなところの水資源が減っているということは思っているながらも、今までも大丈夫だったからということで、あまり危機迫ったものがない状態だと思えます。せっかく区割りがされていますので、水についての事業を縦割りで担当課の水保全課だけがするのではなく、各区役所にももっと地域に根付いたような形で活躍していただけるような場を設けられれば、もう少し皆さんに浸透するのではないかと思います。やはり一番実質的に対応しなければならぬのは、そこに住んでいる人たちだと思いますので、そういう方への情報の共有を進めていただきたいと思いますと思っています。</p>
吉村委員	<p>吉村です。節水をしようと思う気持ちはおそらく、ものすごく感謝して大事にしなければ、と思うか、もう無くなるからという危機感のいずれかだと思います。先ほどの25の協力店舗と言われましたが、この25店舗というのはどのようなところなのでしょうか。</p>
水保全課	<p>主に、節水コマ・節水重り・節水シャワー・節水型トイレ等を取り扱っているホームセンターや、便器等のメーカー等にご協力いただいております。</p>
吉村委員	<p>水道工事や設備の関連会社との連携というのが早いのではないのかなと思いつつ聞いていました。蛇口を交換する時や水道でトラブルがあった時の設備関係、あるいは新築・リフォームの業者が今すごく増えているので、そういう業者と一緒に半強制的に節水コマを取り付けるなど、風上からの動きというのは非常に効果的だろうと思えますし、業者もとても協力的ではないかなと思います。そういった方々がそれぞれのお家に入られますから、そこでの意識付けや説明、パンフレット等による「こういうことを熊本市がすすめているので節水コマを付けるようにお勧めします」といきいきと言っていた方が、もっと身近で理解しやすいのではないかと思います。また、水道を出しっぱなしにしていると、しばら</p>

	<p>くしたら止まるというような機能を熊本市が開発して、例えば食器を洗っている時に流しっぱなしの時には途中で止まるとか、そういう風にしていかないと節水に対する意識がない方はずっとないままなのではないかなと思います。</p>
緒方委員	<p>今小学校の4年生を対象に出前講座をなさっているのですが、これを中学校や高校などでも行って、さっきおっしゃったように区や教育関係などと連携して中学・高校などでも出前講座を実施していかれると意識が変わるかなと思います。</p> <p>確かに自然の地下水を水道で使っているのは熊本だけです。そういう意味では「聞いていない」という子どもも多いかもしれないので、レベルの高い中学・高校にも入れられたらどうかなと思いました。以上です。</p>
越地委員	<p>質問をまず2つします。</p> <p>先ほどの協力店舗の25という数字、これが多いか少ないか掴みにくいのですが、対象となる店舗はいくつくらいあるのですか。</p>
水保全課	<p>対象が何店舗かというのは分からないのですが、条件としてまず小売業者であること、節水器具を必ず置いている所、ということがございますので、それでかなり絞られておまして、ホームセンターなどでないと登録ができない状況です。現在、協力店舗を増やすため、要綱改正等も含め検討しているところです。</p>
越地委員	<p>協力店は多い方がいいのでしょうか。そのためにはどの程度対象店舗があって、そのうちの25がどの程度か、というのは明確にした方がいいと思います。</p> <p>それから、わくわく節水倶楽部は14万人とおっしゃいました。数的にはすごい数ですが、形骸化という言い方は失礼かもしれませんが、中身の充実と数を集めることの絡みはいかがですか。</p>
水保全課	<p>先ほど申しましたように、実際に企業等で登録していただいているところが、一企業で百人いらっしゃれば100人の登録ということになりますが、それが100人全員に伝わっているかという、そこまではないかなという意識はあります。</p>
越地委員	<p>例えば企業単位で100人署名すればそれで100とカウントされるのですね。中身をどう浸透させるかが一つの課題ですね。</p> <p>もう一つよろしいでしょうか。市民意識調査というのがありますがこれも数が非常に多くて3000人対象です。しかも最近行われた調査ということで、価値あることだと思います。しかし、気になるのは回答率です。30数%というのはぎりぎりの回答率でしょうか。回答率が低いとあまり意味がなく、7割近くが答えていない。その人たちの答えにいかにも迫るかが本当の世論調査であるということになります。そういう点では、なぜこんなに回答率が低かったのか、それでどうすれば市民の意識を掴めるのかという意識調査の在り方は、今後大事な点であると思います。ちなみに2000人委員会というのは回答率が高く、96%くらい回答があります。元々の成り立ちの違いもありますが、この意識調査の回答率についてはどうお考えですか。</p>
水保全課	<p>2000人委員会の方にも一昨年、水保全課の方から議題を提出させていただいて、その時は確かに回答率も高く、効果のある調査結果をいただいたのですが、</p>

	こちらで今行っている3000人の意識調査は、あくまで住民票登録のある20歳以上の方の3000人無作為抽出です。やはり回答されない方はどちらかというところと節水に関して無関心層だと思って、私たちもその方々にどう今からアピールしていくかということが一番に考えております。
越地委員	いわば意識の高い人たちのアンケート結果をみるとこうであったと、大雑把に捉えることができるわけですね。一番知りたい人たちはこういうことをやっても反応が掴めない。だから苦慮しているところなのですね。アンケートをする時には回答率を伸ばすという点は極めて大事かなと思います。
吉村委員	1人1日あたり218リットルが目標ということですが、今私が使っている量が全く分かりません。ここにいらっしゃる皆さんはご存知なのでしょうか。例えば水道局からの請求書に一人当たり一日どれくらい使ったかという数値が目に見えて、せめて毎月でも来ると分かるのですが。一人一日あたりというのは、家庭で使用した分ですか、それとも外で使った分も含めてなのでしょうか。
水保課	あくまで家庭用だけで、公共で使われるものは全て除外してあります。
吉村委員	家庭で使用している分が、例えばホームページ上で、グラフで検索できるなど、そういうことはできるのですか。自宅の分をホームページで見たら毎月の分が出てきて、一人当たりがどれくらいになるかなど。
水保課	それはちょっと難しいかと思います。あくまで上水道の使用なので水道局からデータをいただいている状況です。水道局と連携して今からそういったことができなにか検討したいと思います。
吉村委員	そういうことで自分自身が使っている分が全く分からないし、目標も全然分からないのでその辺の工夫が何かあるといいかなと思います。
水保課	218リットルということをお願いしているのですが、分かりやすいように言い換えると、現在230リットルから始めていますので、1年間で2リットルずつ節水していきましようということなんです。
吉村委員	帰って自分がどれくらい使っているか調べてみたいと思います。
明石委員長	他、よろしいでしょうか。それでは他にご意見・ご質問無いようですので、次の生ごみ減量対策事業の取り組みについて、ごみ減量推進課よりご説明をお願いいたします。
ごみ減量推進課	※資料2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査票」にてごみ減量推進課より説明。
明石委員長	ありがとうございました。ただいまご説明いただきました生ごみ減量対策事業について委員の皆様からご質問ご意見ございましたらお願いします。
吉村委員	詳しい説明ありがとうございました。 若い方のお話ができましたが、今、大学生はほとんどご飯を作らない、作るくらいなら食べないというようなお話を良く聞きます。もちろんしっかり作られる方

	<p>もいらっしゃると思いますが、作らない方がとても多いと聞いております。作らないということは生ごみがほとんど出ない、ですので若い方が出されるごみが多いとは限らないのかなと思って聞いておりました。</p> <p>それからごみの分別ゲームですが、私の校区では町内運動会で分別ゲームがあります。小学校の運動会でもあるのですが、非常にいい内容で、「このごみはどの分別BOXに入れるといいでしょう？」というのをみんなでわいわい考えながら行うゲームで、非常に盛り上がるのです。見ているほうも、参加するほうも考えながら学べるゲームなので非常にいいなと思いました。</p> <p>もう一つ、ごみというのは自治会の役割が大きいものなので、自治会または、隣保班等の連携が必要だと感じました。</p>
毎熊委員	<p>自宅で犬を飼っておりまして排泄物が出ます。排泄物をトイレに流すか、ごみとして出すかという問題が一つあります。水保全課とごみ減量推進課よりご説明いただきましたが、相反することだと思います。たとえばティッシュを使うのではなく、雑巾を使いましょう、となるとごみは出ないのですが、水が必要になります。また、トレイについても今まではごみとして捨てていたものをリサイクルするとなると、トレイをきれいにするための水が必要になります。そうすると相反する現象が起きて、家庭の中においては非常に悩ましい問題になります。つまり横断的な、横の連携というのも含めた政策というのは考えてらっしゃるのでしょうか。</p>
ごみ減量推進課	<p>私は以前、水保全課にもおりましたのでお答えさせていただきます。水だけを減らすとか、ごみだけを減らすということではなく、水も含めて本当に必要なものは使うということです。横断的な取り組みとは言えないかもしれませんが、5年ほど前に当時の水の担当者にごみの担当者と話、何か一緒にできないかということで話をしました。その中で、市の封筒に「節水10%削減」と「家庭ごみ20%減量」を両方記載しまして、一緒に啓発を行ったということはあります。</p> <p>また、市民の方からお尋ねがあった場合には、トレイを洗うときにも溜め置きした水や洗い物をした後のすすぎ水などでキレイにして出してください、というようにお話をしております。</p>
篠塚委員	<p>私も毎熊委員と同じで、プラスチックのごみは汚れたものが出せないで、洗うくらいなら捨てたほうがいいのかはと考えたりもしましたが、ここにはプラスチック製の包装が入っているので、やはり洗って分別すべきなのか、もちろん水を工夫しながら洗って分別することもあるのですが、本当に悩ましいところです。</p> <p>もう一点感じるのは、プラスチックを分別するようになってプラスチック類の量の多さに驚いております。実際分別したプラスチック類がリサイクルされているかどうか目に見えないのでお伺いしたいと思います。</p> <p>また、水もそうなのですが、ごみとか環境に関して子どもたちは学校でよく勉強してきていて、家に帰ったら話もしてくれるのですが、毎日の暮らしの中でなんとなくそれが薄れてきて、どうしても新鮮味がなくなってしまうようなところがあります。学校で学んだことを家庭の中で生かしていくためにはどうしたらいい</p>

	<p>いか、小さいうちから親子で取り組めるようなイベントや教育をどんどん取り入れていっていただきたいと思います。</p>
ごみ減量推進課	<p>プラスチック製容器包装類の分別についてですが、別の経費にはなりますが環境学習経費の中で、家庭から出されたごみがどのようにリサイクルされているかということについて作成したDVDがございまして、自治会や各種団体への出前講座の際などに放映しております。また、ごみの処理施設を見学するバスツアーがありますがその中でもDVD等で分別やリサイクルの必要性についても啓発しております。</p> <p>また、先程のご質問の汚れたプラスチック等例えば、レトルトカレーのパックや歯磨き粉などについても本来であればプラスチック製容器包装ですが、水でキレイに洗い流すのはなかなか難しいので、そういったものについては燃やすごみとして出していただいても結構です。</p>
越地委員	<p>生ごみの量についてですが、年々減ってきていたようですが、去年増えております。これについては、たまたまの数字のぶれと考えていらっしゃるのか、それとも要因が他にあると考えておられますか。</p>
ごみ減量推進課	<p>確かに1.31パーセント増えておりますが、正直言いましてこれが増えているのかということ、その検証はまだ正確にはできておりません。ごみの総量については先程のパンフレットの中にありますグラフをご覧ください。こちらが家庭から出される「燃やすごみ」の分析調査で、生ごみの割合が38.4%と出ております。こちらが増えてリサイクルできるものが減っているということも考えられますので、生ごみが増えたからといってごみの総量が増えたとは一概には言えませんので、これに関してはもう少し傾向を見ていかないと原因については分からないと考えております。</p>
吉村委員	<p>生ごみ処理機についてですが、私も今まで何度かチャレンジしたのですが、できたものをどうするかということではなかなか続かないのですが、そういったご意見はないのでしょうか。生ごみ処理機でできた堆肥を買い取ってくれる或いは、引き取ってくれるところがあればいくらでも作るのですが、ただそれをどうしたらいいか分からなくてストップしてしまうという現状がありました。生ごみ処理機というのは畑があるようなところでないと普及しないのかなと思いました。</p> <p>我が家では数年前からニワトリを飼い始めて、生ごみがニワトリのえさになるので、生ごみはまったく出ません。えさが足りずに夫の職場から給食の残飯などをいただいてニワトリを養っております。生ごみ減量には我が家は随分貢献しているのかなと思っております。それから、最近のガーデニング雑誌にもニワトリがペットとしてブームになっておりまして、特にフランスではニワトリを飼うのがちょっとしたトレンドになっております。動きが可愛いのごみ減量に役立つということでガーデニング雑誌にも特集されるなど、だんだん昔の風景になってきているのかなと思いました。</p>
ごみ減量推進	<p>生ごみ処理機でできましたものにつきましては、先程おっしゃったとおり可能であればご自宅で肥料として使っていただくと一番ありがたいのですが、最近</p>

課	<p>マンションでしたりお庭がないお宅もございますのでそこについては、熊本市のリサイクル情報プラザというところが戸島町にございますので、そちらに持ってきていただくと、引き取りまして堆肥にして皆様に無料でお配りしております。また、各区役所、総合出張所、出張所において拠点回収ということで回収日を定めて、持ってきていただければ引き取りましてリサイクル情報プラザのほうで堆肥にして同じように無料でお配りしております。</p>
毛 利 委 員	<p>15年ほど前になりますが、ごみのリサイクルを目的として熊本大学と共同で生ごみをバケツに入れて車の燃料にするという取り組みをおこなってありました。私の町内でも試験的に行っていましたが、その話は現在どうなっているのでしょうか。</p> <p>それからまな板についてはどういったところで配ってらっしゃるのでしょうか。</p>
ごみ減 量推進 課	<p>1点目の生ごみを車の燃料にということについては、大変申し訳ありませんが存じ上げておりません。(後日、調査のうえ12月12日付けで、関係資料を毛利委員へ送付済み。)</p> <p>2点目のまな板については、5月と10月に実施される大きなイベントに出展しており、その際の「分別ゲーム」や「ひとしぼりゲーム」を行ってございまして、その際の参加賞としてお渡ししております。また、食生活改善推進委員さんをお願いしております「エコレシピ」の普及活動の際に参加者の皆様にお配りするなどの活用をしております。</p>
安 永 委 員	<p>ごみを50g減らすとか、料理をすれば無駄がなくせるなど明確な表現でとても分かりやすく、私もやってみようかなと思いました。ですが、それがずっと継続できるかについて疑問を持ちました。例えばダイエットする方が毎日体重を量って日々の成果を見るように、ごみの減量についても自分がごみの排出量を減らせたというような実感ができるような工夫があれば継続しやすいと思いました。そのような市民が継続できるような工夫はありますか。</p>
ごみ減 量推進 課	<p>そこが一番難しい問題です。水も同じだと思いますが、無関心層でありますとか、ずっとこれがライフスタイルとして続くようにということで、ターゲットを絞ったり、エコレシピを開発したりなど新しい取り組みを行ったりして、新鮮さを与えながらいろんなことを行っています。</p> <p>もしよければその辺のお知恵をいただければありがたいです。</p>
緒 方 委 員	<p>お知恵になるかどうかはわかりませんが、私の住んでいるところは、ごみステーションの掃除当番があります。そこではごみの分別をしてないものや、別のところから持ち込まれたごみがあります。出したごみに名前を書いて出していただくというのはやはり難しいのでしょうか。他の市町村等で事例はあるのでしょうか。</p>
ごみ減 量推進 課	<p>ごみステーションの管理については自治会にかなり貢献いただいております。その中で違反ごみが多いところになりますと、名前を書いてごみを出すというような話も出ております。しかし、強制的にとりますとプライバシー等の問</p>

	<p>題になりますのでとても難しい問題であります。例えば自治会の中で皆様合意の上で名前を書くということであれば可能だとは思いますが、名前を書いたことによって逆に特定の方のごみを持ち帰ってどうこうなどとなれば別の問題にもなります。そういうプライバシーの問題もありまして、全国的にも大都市で名前を書いてごみを出すような取り組みをされているところはありません。</p>
<p>田中副 委員長</p>	<p>熊本大学の田中です。先ほどの水保全課とのコラボについての、ごみ減量推進課の説明がすごくわかりやすく、行政の方がコラボレーションをするというのはすごく良いことだと思っています。情報共有はなるべく絞る、いろんな情報をワンストップ化するというのは大切なことだと思っていますので、よい取り組みをされているなと感じました。職員さんの説明も楽しそうで、いつも楽しく仕事をされているのだろうということが伝わってきました。行政の皆さんの努力が進んでいるのだろうと思います。先ほどの水の話も一緒ですが、いろいろと手を変え、品を変えというのがあると思います。これからも続けていただきたいと思いましたし、レベルの高いことをされているのだと思います。</p> <p>一方で、先ほどの安永委員のどうやって継続していくかという話と、毎熊委員の話されたような問題意識を持っていらっしゃる市民の方とどう寄り添っていくのかということも、いろいろと工夫が必要だと思っています。安永委員のどのように継続していくのかということは、楽しく続けていくということが大事だと思っています。最近、僕の周りでは歩数計をつける人がすごく増えていて、歩くということがいろんなライフスタイルを考えると、ダイエット、節約、公共交通機関の利用促進などにつながっていくのだと思います。</p> <p>水もごみも自分たちのライフスタイルを考えていく、熊本市民はクリエイティブな市民だということを市役所として打ち出していくような、節水メーターのようなものがつけられて、どれくらい水を使ったのかがわかったり、自分のごみを出した量でシールみたいなものが貼られたりなど、いろいろ工夫があると思います。例えばですが、歩数計に寄せるようなものを市全体として取り組んでいただくなど、吉村委員の先進的な取り組みの事例もありましたが、市役所内の課同士では連携が取れてきているようなので、あとは市民といかに協働していくかの場の作り方だと思っています。なるべくみなさんの仕事を減らしたほうがいいと私は思うので、余計な仕事を増やすのではなく、いろんな課が寄り添って市民と一緒に考える場、例えば熊本の暮らしについて考えるようなことをやってみるということです。そういう工夫があったらいいのかなと思います。</p> <p>今回、情報共有をテーマに話をしていますので、私たちは事業を評価できる立場ではないのですが、いいことをしているのに知らない人が多い無関心層にどう切り込んでいくのかというのは、皆さん課題だと思います。関心の高い方でも、あるところは低かったりします。そういったところを徐々に皆で取り込んでいって、仲間を増やしていく活動がいいなと思いました。今、皆さん話していることはすごく大事なことだと思います。大変ですが、後の少し種類の違う要援護者支援制度も併せて議論できればと思います。</p>

毎熊委員	<p>私は任意の団体で、料理の講習などをやっておりますが、ほとんどごみができません。皮のまま使用するなど、エコクッキングを実践しているのですが、例えば10人いる講座のごみの量は、こぶしひとつ分程なのです。目で見てこれだけしかごみが出ませんでしたという実践を目の当たりにし、皮を食べてみて、食べられるという実感から、家庭の中に浸透していくと思っております。目標の数字を出して、ごみを減らしましょうといってもなかなか浸透していかないのが、実践していただいて実感してもらおうようにしております。</p> <p>水も同じですが、先ほど田中副委員長からもありましたように、市のイベントとかはもちろんですが、それ以外にも私達のように活動を行っている団体との連携は非常に有効ではないかなと常日頃思っているのですが、連携する場やタイミングなどありません。私たちはそういう情報の共有がしたいと思っています。市民活動支援センターあいぽーとに行くという団体の登録がたくさんありますので、ぜひアプローチの方、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
明石委員長	<p>はい、ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。他にご質問等がないようでしたら、先に進めさせていただきます。</p> <p>それでは、次の「災害時要援護者支援制度」について健康福祉政策課よりご説明よろしくお願ひいたします。</p>
健康福祉政策課	<p>※資料 2「市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査表」にて健康福祉政策課より説明。</p>
明石委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>では、ただいまご説明をいただきました「災害時要援護者支援制度事業」について委員の皆様からご質問、ご意見をいただきたいと存じます。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
田中副委員長	<p>すごく大変な制度の説明を短時間でしていただき、ありがとうございました。健康福祉政策課の職員さんが責任感を持ってこの事業をされていらっしゃる事がよくわかりました。私は防災の専門ではありませんが、元々は土木の出身で、防災は当然考えていく必要があります、非日常のことを考えるわけです。日常とのすり合わせといいますか、基本的には万が一のことはいつもできていないとできないので、日常の業務とのすりつけが大変だと思うのですが、どのように広報するのかというときに、本当に補助が必要な方の名簿を作っているという話で、すごく難しいだろうと感じました。だからこそ、他の課との連携というのが必要だと思うのですが、僕はこの政策を健康福祉政策課がされているということが、すごいと思うと同時に大変だろうと思ひました。都市計画であるとか、そういうハードの方々との連携というのは実際にどれくらい進んでいるのでしょうか。</p>
健康福祉政策課	<p>これまで市の関係課の中で、危機管理防災総室や、消防局が入って協議が行われていましたが、平成19年度から現時点までで進めている災害時要援護者支援制度については、なかなか連携がうまく図れていなかった部分がありました。先ほど申し上げました国の災害対策基本法が改正され、今後対象者が増えていくこ</p>

	<p>とを踏まえて、今は危機管理が入っている総務局と、熊本市では区制になっておりまして、災害の時には各区役所で区の対策本部というのが立ち上がります。ですので、区も交えての連携、協議を進めているところでございます。具体的にはどうやってこの方々を支えていくか、もちろん地域だけの支えでは成り立たない部分や、市の公助が必要な部分もございますので、支援体制をどう構築していくのかという部分について、今後は総務局が中心となり、地域の60%以上で自主防災クラブが結成されているので、それらと絡めながら要援護者の方々の支援をどう進めていくのかについて協議をしているところでございます。</p>
田中副委員長	<p>ありがとうございます。健康福祉政策課の職員さんは今までのキャリアの中でずっと健康福祉政策課におられるのですか。</p>
健康福祉政策課	<p>いろいろと異動してきまして、5年前からこの事業に関わっております。</p>
田中副委員長	<p>前の部署での経験がここで生きているということはあるですか。</p>
健康福祉政策課	<p>以前所属していた部署は、今回のこの制度とはあまり関係ない部分でございました。</p>
田中副委員長	<p>私はそういうところが大事かと思っていまして、職員さんがエキスパートになると、職員さんが異動した後に誰が引き継ぐのかという問題があると思いました。この様な専門性が高い業務だからこそ、引継ぎ等をきちんとしておかないと、万が一何かあった時に代わりがいなくなったら、公務員としてはよくないことだと思います。現状での部局間の連携というのも大事だと思うのですが、世代の話も考えておかないといけないのではないかということが一点です。</p> <p>一つ気になった点が、今後これは業務を進めていく中でぜひ議論していただきたいのですが、職員さんは共助ということを強調されてご説明されていましたが、どちらかという公助のお仕事だと思います。国からきているのでこういうことをやらなければいけないというお仕事ではないかと思うのです。その部分は粛々とやっていただければいいと思います。名簿など作らなくてもうちは大丈夫という何となく成り立っている地域もあると思うのですが、そういう所はそういう所で尊重していくというのも大事なことはないかと思います。先ほどのライフスタイルとのつながりも、たぶんその辺で出てくるものだと思います。校区ごとで自主防災クラブを結成して取り組んでいくことは賛成なのですが、あまりにも形骸化してしまうとよくないのではないかと思うところがあり、実質をとっていただきたいなと思います。共助というのはもちろん大事なことです、それが市民の方から自分たちで共助という風にならないと、真の共助というものではなく、もちろん一人ひとりの自助から始まるわけです。そのあたりの構成を心に留めてもらえたらと思います。共助、共助と言わなくても、本当はそれが理想だと思います。すごくいいお仕事されていますし、こういうことが熊本市でできていると</p>

	<p>ということが、民意の涵養と申しますか、そういうのも大事ななと思いました。</p>
毛 利 委 員	<p>この名簿の共有化はずいぶん長い間、自治会長さんも民生委員も言い続けており、別々に情報を持っていたものを、同じ名簿を持てるようになったことは地域としてもやりやすくなったと思います。民生委員さんが地域を回られて、声かけをされていますが、集合住宅やマンション等の対象者の方がなかなか把握できなかつたり、伺ってもお会いすることができなかつたりするケースが大変多いので、どうすればよいのか具体的なやり方をアドバイスいただくと民生委員さんも動き易いのではないかと思いますので、ご意見があればお願いしたいと思います。</p>
健康福 祉政策 課	<p>民生委員さんも私どものところで所管しております。要援護者の話と少しずれてくるところはありますけれど、民生委員さんが業務の中で一番大きな部分である高齢者の見守りですとか、そういった部分でやはりマンション等の集合住宅は非常に問題となっています。65歳以上の高齢者名簿を平成25年度から全民生委員さんにお渡しして、見守り活動などに活用していただいているところですが、ご本人とお会いしたくてもオートロックで入れない、管理組合や管理人さんにお話しても本人の許可がないと開けてくれないなど、ここが大きな課題でございます。なかなか難しいところがあり、行政としても課題として認識しているところがございます。情報としては民生委員さんに高齢者の方について、または災害時要援護者に登録された方については、情報をお渡ししていますが、マンションの壁と言いますか、課題として認識しているところがございます。</p>
毛 利 委 員	<p>例えば対象となる65歳以上の方、障がいを持っている方の保護者等、そういった方のところにはこういった制度があるというお知らせはされているのでしょうか。</p>
健康福 祉政策 課	<p>今まではあくまでも民生委員さんの活動を通じてお知らせしておりました。以前は登録推進名簿といって高齢者の名簿をお渡しして、平成21年度より高齢者の登録推進を図ったことはございますが、現時点では民生委員さんの活動の中で登録された方がいいと思われる方を登録するという感じです。先ほど申し上げた国の災害対策基本法の関係で、名前が似ており紛らわしいですが、「避難行動要支援者名簿」という、一定の身体条件に基づく名簿の作成が義務付けられ、全国一斉に名簿を作成しています。災害時要援護者制度の分母は、真に支援を必要とする方という曖昧な表現だけで、例えば高齢の方、独居の方、障がいをお持ちの方などで、はっきりしていませんでしたが、災害対策基本法の改正を受け、3.7万人という分母が決まりました。自治体に義務付けられました避難行動要支援者名簿ですが、この名簿を活用できるのは、災害時のみに限られます。災害が発生しない限りは、この名簿を地域の方にお渡しすることはできません。ですので、災害時に動くためには、平常時から地域に情報をお渡しし、名簿を共有化し、態勢作りを考えていただく必要がありますので、今8千人しかいない災害時要援護者を3.7万人につなげていくことが、大きな課題と目標でございます。ですので、今年度末に3.7万人の方々には個別に文書を送付いたしまして、災害時要援護者制度に登録しませんかということを、第一の取り組みとしてさせていただ</p>

	くと考えているところです。
吉村委員	まちづくりや保護司として活動をさせていただいておりますが、地域でこういう動きがあること、大変なことを行政の方がされていることを初めて知りました。本当にありがとうございます。最初の実績調査表の中に成果というものがあります。「防災拠点等の適正な維持管理」の目標値・実績値が平成30年度まで100%になっていますが、この見方を教えていただきたいのと、「デジタル同報系防災無線の整備（進捗率）」は今から急激に広めていかれるということでしょうか。こちらにも数値の見方を教えていただければと思います。
健康福祉政策課	申し訳ございません。この件に関しては危機管理防災総室の部分となり、同じ防災拠点施設等整備事業で一括りにされている部分でございます。こちらに関しては私の方ではお答えができかねる部分でございます。危機管理防災総室に尋ね、市民協働課さんを通じて吉村委員に回答させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
毎熊委員	昨年、自治会の活動をしていたのですが、1年だけでしたので前後のことはよくわかりませんが、その時も一人暮らしの高齢者をどうするかということで、頭を悩まされておりました。こちらの調査表によりますと、今年、名簿を作成されておりますが、どのようにして作成されたのでしょうか。
健康福祉政策課	<p>私が説明申し上げた部分で3種類の名簿ができております。3種類を混同されている部分があるかと思っておりますので、それぞれ説明させていただきます。</p> <p>まず災害時要援護者支援制度に基づく「要援護者登録者名簿」は、手を上げた方ご本人の申請情報に基づいて8000人ほどの名簿を作成しております。こちらはご本人が申請される際に地域への情報提供の同意をいただいておりますので、平常時から地域にお渡ししている名簿でございます。自治会、自主防災、民生委員などで同じ名簿を共有してもらっています。</p> <p>2番目が、国の災害対策基本法の改正に基づいて今年の5月に作成した「避難行動要支援者名簿」です。こちらは身体条件に基づいて、身体障がい者手帳の1級・2級、どこに障がいがあるなどの手帳の情報、もしくは要介護3・4など要介護の情報から名簿を作成しており、約3.7万人いらっしゃいます。こちらについては本人の同意はとっておりませんので、災害発生時のみこの法律に基づいて支援者にお渡しして活用いただくものでございます。</p> <p>3番目が平成25年度から民生委員に対して提供しております「65歳以上の全高齢者名簿」です。約16万人の名簿でございます。それを校区や町内の担当に分けたものをお渡しして、日頃からの高齢者の見守り等に使用していただいております。こちらは住基情報がベースとなっております。その中には独居であったり、高齢者のみの世帯、介護保険の利用の有無、医療保険の利用の有無なども記載されている名簿でございます。そちらは民生委員だけにお渡しして、民生委員も守秘義務がございますので、地域で開示することはできませんが、地域で使っていただいている名簿でございます。</p> <p>この3種類の名簿を地域にお渡ししております。</p>

篠塚委員	先程ご説明がありました3番目の名簿について質問です。3番目の名簿に基づいて民生委員さんが必要と思われる対象者の方の登録をされているということでよろしいでしょうか。以前はローラーで全員まわっていたということでしたが、現在は必要と思われる方のみに回るようになったということですが、基準が難しいのではないのでしょうか。また変更された経緯を教えてください。
健康福祉政策課	ローラーで回っていただいたのが、平成21年度末ですが、この制度がはじまったのが平成19年でして登録者が2、3千人で推移しており伸び悩んでおりました。ですので、登録推進ということで民生委員さんに65歳以上の高齢者名簿を登録推進のためだけに期間限定でお渡しして個別に訪問していただいて登録を呼びかけていただきました。その際も対象者についてはきちんとお伝えしていたのですが、個別に回って呼びかけますと、どうしても登録をする方が増えてしまい、1万人程まで増えました。その中で地域の方等から「自分よりも健康な方が登録をされている」とか「この方はご家族がたくさんいらっしゃるので登録の必要がないのでは」など、いろんなご意見をいただきました。それを受けて登録の方法について再度検討をし、ローラー的な登録推進をやめて、日ごろの民生委員活動の中で同居の家族がいないとか、一人で歩くことができないなど災害時に支援を必要とする方について個別に登録をしていただくという形で現在運用しております。
篠塚委員	広報を大々的にされてない理由が今の説明でよく分かりました。 一つ気になったのが、家族の形も様態についてもその時々で変わってきますので災害時要援護者支援制度についてまったく知らないというのでは、本当に必要になったときに困るのではないかと思いました。広報の仕方、情報共有についても本当に難しい問題だなと思いました。
越地委員	およそ8千人のプランができた方で、実際に災害時などに機能したケースはありますか。
健康福祉政策課	熊本市では平成24年度の九州北部豪雨災害の際に、プランというより名簿に基づいて避難支援がなされたと聞いております。ただ、登録の有無に関わらず地域の自治会や消防団が中心となって活動をされ、この制度が一部生かされたという事例がございます。
明石委員長	その他、ご意見ご質問はよろしいでしょうか。 それでは、最後にこれまでの3つの事業全体を通してのご意見ご質問等ございましたらお願いします。また、担当課のほうからも説明不足の点などございましたらお願いします。
吉村委員	水保全課への質問です。 2180で4人家族でしたら、水道料金はだいたいいくらになるのでしょうか。
水保全課	申し訳ありません。水道料金については把握しておりません。ホームページ等ではすぐ計算はできます。
越地委員	水保全課のポスター、パンフレットに掲載してありますキャラクターですが名前は何というのでしょうか。

水保課	節水ちゃんです。
越地委員	水関係でありますと、ウォッタくんというマスコットが別にいました。私、ウォーターライフのシンボルマークを作成するときの委員会のメンバーでもありましたが、その流れの中で何かキャラクターを作ろうということで生まれました。たくさんあるのはいいことなのですが、印象が薄くなります。ですので、もっとイメージを高めるためのアピールをやっていくといいのではないのでしょうか。その前に、ウォッタくんは今どうなったのでしょうか。
水保課	ウォッタくんはあくまで、上下水道局のイメージキャラクターで、今も活躍しております。昨年から節水ちゃんとウォッタくんと一緒にイベントに出演させるというのを度々やっております。
越地委員	デザインも似ておりますけど、ウォッタくんも可愛いですね。ぜひ有効利用していただきたいと思います。先ほど無意識層にどう働きかけるか、というときに、いろいろと文言や理屈を並べ言葉をかけるよりも、イメージに訴えかけるということも一つの方法だと思いますから、折角あるキャラクターをぜひ活躍させてください。ひごまるくんも出てきておりますが、いろいろと出てくると散漫になりますから、水関係は節水ちゃんやウォッタくんなどで統一するなどして、アピールを強めていけたらいいのかなと思います。 そしてこのポスターで「はみがき1分、コップに水ためて！」とありますが、はみがき1分というのは歯科医師会などからご指摘はありませんでしたか。今、はみがきは3分しようとよく言われています。1分の語呂合わせかなとも思ったのですが。1日3回3分というのが歯科医師会のキャッチフレーズですね。はみがき1分でいいのかという誤解を与えたらまずいのではないかと思います。
毛利委員	私も水のことでお聞きしたいのですが、水が大切ということは多くの市民が理解されていると思います。いろいろと啓蒙活動やキャンペーンなどされていますが、うまくいかなかった、やりにくかったこと等あれば、私たちもお手伝いできることや少し考えなければいけないことあるのかなと思いますので、そういうことがありましたら教えてください。
水保課	出前講座等は市民の方の申請に基づいて開催しておりますので、うまくいかないということはないのですが、無意識層の方が接触してきてくださることは全くないので、そこをどうするのかということが今一番の課題だと思っています。
毛利委員	水の大切さ、水の歴史など、出来るだけ多くの方に知っていただくことが私たちも大事だと思います。実際に行っていることとしては、地域の中の水遺産、水に関わる場所としてこのような所があるということで、子どもたちを連れて歩いたりしております。水は身近なところにたくさんあるので、例えば地域にある井戸や、井戸水を汲んで子どもたちに水を飲ませるなど、熊本城の下の清爽園のような池に繰り出して、魚や蛍の幼虫の観察をしたり、江戸時代はこのように水の配水をしていたというようなところを、できるだけ子ども目線で教えていくことは大事だと思います。こういうことも取り入れていただければと思います。

篠塚委員	<p>今気がついたのでありますが、家庭に送られてきます「水道ご使用量のお知らせ」には立方メートルで単位が書いてありますが、節水運動はリトルなので、子どもたちにわかりやすいように統一されても良いのではと思いました。</p>
毎熊委員	<p>災害時要援護者支援制度です。すごく良い制度なので進めて完成させていただきたいのですが、反面、地域の周りを見てみると、やはり高齢者が多くなっています。家族がいて一人住まいではなくても、家庭の中に高齢者が増えているという現状の中で、例えば高齢者だけが昼間家にいて、夜にしか若い方は帰ってこない。学校の子どもたちも同じですが。そういう時の対策というのは、ここに書いてあるように登録しても、やはり補えないものがあるのではないかと思います。そういうところを担保するような、自助共助の部分で地域との関連というのは、自治会あたりとの連携などがあるのですか。</p>
健康福祉政策課	<p>少し回答が難しいのですが、確かに普段子どもと一緒にいる高齢者も、昼間は子どもが仕事をされていて一人、というかたちで登録されている方も多数いらっしゃいます。そういった方については、プランなどの特記事項で地域にお知らせして、その部分は地域の方で把握していただくというかたちで、お願い・お知らせしているところではあります。特に担保という部分については、特段、別途それ以外の取り組みは実施していません。</p>
毛利委員	<p>今お答えいただいたことに関連してお聞きします。</p> <p>校区の中でも毎年亡くなる方が結構おられます。私がいる校区でも年間80～100の方が亡くなられていますので、名簿の洗い直しや新しい名簿などは、1年おきですとか3年毎など、何か決めておられますか。</p>
健康福祉政策課	<p>名簿につきましては四半期に一度、住民基本台帳と照らし合わせて、亡くなられたり、その町内から出られた、もしくは市外に出られたという方については、全て更新作業を行っております。例えば転居された方については、市内間の転居であれば新たな住所に「再び制度の登録を希望されますか？」という文書を送り、皆様にご案内を差し上げている状況です。そういった移動があった都度、地域の方には新たに差し替えた名簿をお渡ししたりしております。また今年度、地域の方で名簿の新たな差し替え・全部の交換という形で取り組んでおります。</p>
越地委員	<p>全体的なことですが、先ほどのマスコットキャラクターについて、こだわるわけではないのですが、ウォッタくんと節水ちゃんの二つが似ていますので、水の双子という形でアピールして下さったらいいかなと思います。</p> <p>今日お聞きして、私は全体的な印象でこのようなことを思いました。3つの事業がありましたが、そのうち最初と二つ目の節水対策と生ごみ減量対策を一括りにして、もう一つの災害時要援護者支援制度を一つとして、これら二つにした時にこのような印象を受けました。</p> <p>節水対策と生ごみ減量対策は「こうすれば節水できます・生ごみが減ります」という方法論をかなりアピールされています。それは至れり尽くせりで、かゆい所に手の届く方法だと思えます。ただこの場合には危機感が弱い。何故こうしなければならぬのか、という意識・必要性・危機感がこの二つについては根本的</p>

	<p>に非常に弱いという印象を受けます。だから色々方法論を説いても、それが表面をさすっていくという印象を受けました。要は「何故節水しなければならないのか。」「何故ごみを減らさなければならないのか。」ということです。特に節水で言えば、熊本は地下水が世界一と言っているのは無尽蔵にあるというイメージがあります。汲めども汲めども尽きぬ地下水というイメージが抜けません。その中で色々節水に関することを言われてもなかなか緊迫感・危機感が弱い。「無限にあるものではなく、いつか無くなる可能性があります。」ということをもう少し前面に打ち出す啓発があってはじめて方法論です。これが大事だろうと思いました。</p> <p>一方で災害時要援護者支援制度は逆です。災害に対しての危機感がありますよね。東日本大震災などで非常に怖い思いをしたので、危機感はあるが今度は方法論がわからない。私が先ほどお聞きした、実際の適用例はありますか、というのがそのことなのですが、例えば「こういうケースがあった。」というような事例を啓発の一つとして使う。熊本で無い場合は他所でもいいですよ。「このようなプラン・個別表を作成していたことで、こう繋がって行って、この方はこう助かりました。」というように今度は具体論を持っていく。</p> <p>それぞれに課題があるように思いました。必要性をより強調して具体論と絡めていく方法論と、危機感はあるが具体的にどうすれば良いかいまちピンとこない災害の事業。この噛み合わせを情報の発信・共有という点では大事なという印象を持ちました。</p>
<p>田中副 委員長</p>	<p>越地委員の話聞いて思ったのですが、せっかくなので提案をしたいと思えます。私もまちづくりをずっとやっていますが、いつでも3つ大事なことがあるのではないかと考えています。よく言われるのが、まちづくりに終わりはないということです。その時に大事なのは排除しないこと。全部取っていくことが重要で、多数決はだめです。そこでもう一つ大事なことは諦めないこと。3つの事例とも、無関心層という言葉が出ていますが、それはたぶん諦めだと思えます。もうここからは自分たちがいくら努力しても、無関心だからお手上げ、ということがあると思えます。私は先生をしていますので、学生に勉強してもらおうのが仕事ですが、「教える」と「教わる」の二項対立だとどうしても聞いてくれない。そんな学生はほっときたいという気持ちも先生としてはあるのですが、それではだめで、逆に学生の方から出している情報を私たちが受け取るという、学生から学ぶ姿勢が大事です。FD、ファカルティー・ディベロップメントといいます。そういったことが大事なのではないかと思えます。そういった時にいつまでも情報を出し手と受け手に分けていると良くなって、毎熊委員がおっしゃっていましたが「私たちは結構いい活動をしているが、もっとこの活動を皆さんが利用してくれたらいいな。」というようなことが大事だと思います。市民との情報共有の場づくりはどうすればできるかという、やはり無関心層と言わないこと。無関心層の中にも色々いるのでもう少し分けてみる。ごみの問題にとっては無関心層だったが、水の問題には結構食いついてくる、ということもあるので、どんどんターゲットングしていく。今みなさんターゲットングされているのでいいのですが、も</p>

	<p>う一つ掘り下げてみるというのが大事なのではないかと思います。諦めずに「こちらだったらいいのでは。」という具合にどんどん分けていく。逆に市民の方から出している情報を、情報の出し手側が受け取るという場もあったほうがいいのかと思います。そのように情報が双方向になることですね、出し手の情報だけではなく、無関心層と言われている中でも結構こういうことには関心がある、というのを受け取って行ってそれを交換していくような場。そうすると無関心層は減っていくと思います。そのように切り崩しをやっていくと良くなるのではないかと思います。今日の3事例については横の連携はかなりお話が聞けたので、今度は市民の方といかに情報のキャッチボールをするかというところで、そういう無関心層と言わないのが大事なのではないかと思ったので発言しました。</p>
<p>明 石 委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今日は皆様方から大変貴重なご意見をいただきましたと思います。前回は区の事業についてヒアリングをさせていただき、今日は市民全体に関わりのある、特にサステナブルという持続可能なコミュニティづくりという面で、非常に大事な3つの事業についてヒアリングをさせていただいたところです。</p> <p>全体でいうと3つの項目がありましたが、一つはメッセージの流し方の話です。これは田中副委員長や越地委員もおっしゃったように、いわゆるメッセージの流し方、これは普通、行政情報は広く一般に流れて、結局誰にも影響を与えないということが多いのですが、やはりマーケティングでいうターゲティング、セグメンテーションというように細かくマーケットを細分化して行って、そこに焦点を合わせてメッセージを伝えることが重要です。今日の3つの事業ともそういう努力をされているというのは感じたところです。メッセージというのは、抽象的で漠然としたものはなかなか伝わりませんから、例えば1人1日あたり218リットルという目標を明確に示して、単純にしなければなりません。それは今日ご説明いただいた通りだと思います。</p> <p>それから最後の災害時要援護者支援制度の話ですが、これもやはりターゲットをかなり絞り込んで、行政の持てる資源をそういうターゲットに焦点を合わせることによって、政策の実効性を上げるとそういう方向がはっきり出ているというのも、やはり情報の流し方としては非常に評価できると思います。</p> <p>それから市役所組織の対応として、これも委員の皆様からたくさんご意見をいただいておりますが、縦割りではなく横の繋がりとの連携をとり、一人ひとりの職員がしっかりと意識を持って仕事に取り組んでいく。この辺りができれば、自ずと良い方向に道は開けてくると思います。</p> <p>それからこれも委員の皆様からたくさんご意見をいただいておりますが、いくら行政の方が働き掛けても、受け皿として受ける方の市民が自分のライフスタイルなりを考え直して取り組まなければなりません。先ほど越地委員もおっしゃった「何のための節水か、何のためのごみ減量か。」ということをはっきりと認識して、自分の生活スタイルそのものに問題があるということに気付いていただければ、大きく自分自身の一歩を踏み出すことに繋がると思います。ですので、やは</p>

	<p>りそういう情報の流し方における言わば第一歩を、非常に難しいですが、皆様方の取り組みが踏み出していただけているのかなと思う所です。</p> <p>今後とも非常に難しくはありますが、ターゲットを絞り込んで、一番中心となるようなところに力を注ぐことで、熊本市としての非常に実効性を高めるような政策や取り組みを今後とも続けていただきたいと思います。</p> <p>それでは、ほぼ予定をしておりました時間が参りましたので、この事例検証についてはこの程度で終わらせていただきたいと思います。各委員におかれましては本日のヒアリングを基に、検証評価シートを作成していただければと存じます。またよろしく願いいたします。それから最後に次回の開催日程ですが、次回の第5回につきましては、これまでの3回、そしてこの第4回と、ここで行いました市の取り組みの事例検証を振り返りながら、本年度の委員会のまとめをさせていただく予定となっております。それでは開催日程につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日も誠にありがとうございました。今明石委員長よりご説明がございました。次回の委員会につきましては、これまでの事例検証を振り返りながら、委員会としてのまとめをしていただく予定としております。具体的には中間報告書の骨子のようなものを、委員の皆様と一緒にまとめていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>日程についてですが、事前に調整をさせていただきましたが、来年の2月16日（月）に開催させていただければと思っております。時間は午後3時からということをお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜ 委 員 了 承 ＞</p> <p>どうもありがとうございます。また開催場所等につきましては後日文書で改めてご通知申し上げたいと存じます。また今回は、本年度最後の委員会となりますので、よろしければ委員会終了後に懇親会をさせていただければと思っております。こちらの方も日程調整をお願いできたらと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
明石委員長	<p>それではちょうど予定しておりました終了の時間が参りましたので、これをもって委員会は終了とさせていただきます。</p> <p>皆様ご協力どうもありがとうございました。</p>